

## 米国ニューメキシコ大学薬学部留学生の長崎大学薬学部での臨床研修 および本学薬学部生との交流

2026年3月8日(日)から19日(木)までの2週間、アメリカ・ニューメキシコ大学 (UNM) から、Maryam Elaksher さん(薬学部4年生)、Laura Arvizo さん(薬学部4年生)、教員1名が、臨床研修のため長崎大学薬学部を訪れました。この研修は、2023年2月14日に締結されたUNMとの大学間学術交流協定に基づくもので、毎年2月に行っており、今回で4回目です。

初日には、留学生は長崎大学薬学部の学生たちと一緒に市内観光を楽しみ、翌日午前中には薬学部の茶道部学生11名によるお茶会による歓迎、夜には教員や学生との歓迎交流会が開催されました。



薬学部茶道部による歓迎のお茶会

臨床実習では、長崎大学薬学部内の模擬薬局(臨床実習室)で事前の臨床実習を受け、試験に合格後、長崎市内の調剤薬局、漢方薬局やドラッグストアを訪問しました。漢方実習では煎じ薬や紫雲膏(しうんこう)などの漢方薬を調製しました。長崎大学病院薬剤部では日本の病院薬剤師の仕事や役割を実際に学修しました。さらに佐賀県鳥栖市にある大石膏盛堂を本学学生と共に訪れ、貼付剤の製造過程や医薬品開発、品質管理業務を見学しました。



薬学部の模擬薬局で事前実習を受ける留学生

2週目には留学生は上五島へ移動し、調剤薬局において、調剤や在宅医療を体験したり、ドローンによる薬剤配送を見学したり、離島における僻地医療について学んだりしました。最終日の3月19日(木)には、学生交流会が開催されました。長崎大学からは高橋沙和さん(薬学部5年生)が日本の薬学教育について、大貝洋一郎さん(博士課程3年生)が自身が行なっている研究について、英語で発表し、UNMからは、Maryam ElaksherさんとLaura Arvizoさんが、アメリカの薬学部の臨床実習や長崎での学びについて発表しました。この2週間研修期間中、のべ65名の本学薬学部学生が留学生と活発的に交流しました。本学の学生にとっても異文化や海外の薬学教育を学ぶ貴重な機会となりました。



交流会で発表を聞いている学生たち



ニューメキシコ州の伝統的なクッキー(ビスコチート)を囲みながらの歓談会



交流会の参加者との記念撮影